

日本戦間期における食料費支出—需要側と流通側から

はしがき	i
序章	1
第1章 篠原推計の再検討	12
1.1. はじめに	12
1.2. 篠原推計(缶詰, ソース・ケチャップ類, たばこ)の補完	13
1.3. 魚類消費量の新推計	18
1.4. 補完後の食料消費量(数量系列)と実質消費金額(金額系列)	24
1.5. 結語	26
第2章 食料費支出に関する数量系列と金額系列	27
2.1. はじめに	27
2.2. 戦間期における食料費支出の分析	27
2.3. 外食費の推計	33
2.4. 結語	40
第3章 都市・農村別カロリー消費量	42
3.1. はじめに	42
3.2. 家計調査からみたカロリー消費量の構造変化	42
3.3. 結語	50
第4章 複合食萌芽形態の再検討	52
4.1. はじめに	52
4.2. 複合食萌芽形態についての定量的基準の設定	53
4.3. 農家世帯と都市住民における基本データの検討	54
4.4. 米食比重減退と複合食萌芽形態	63
4.5. 支出弾力性からみた農家世帯の消費実態	65
4.6. 結語	73

第5章	魚類の流通パターン-----海上・陸上輸送の展開	75
5.1.	はじめに	75
5.2.	港湾統計による海上流通パターン	76
5.3.	鉄道統計資料からみた魚類普及	84
5.4.	鉄道駅と魚類輸送	93
5.5.	鉄道駅と農家世帯の距離	97
5.6.	結語	103
第6章	新・洋風メーカーの宣伝・販売体制	104
6.1.	新・洋風食品メーカーの宣伝活動	104
6.2.	新・洋風食品メーカーの販売体制	107
6.3.	日本缶詰協会の商品普及活動	118
6.4.	結語	124
終章		126
あとがき		130
文献目録		131
図表一覧		137